

恵那駅発 18:19 の明知鉄道に直ぐの待合せで乗る。

この線は、国鉄時代は明知線と呼ばれていた第三セクター線である。

終点の明智駅までは、25.1 Km と短く乗車時間は 1 時間弱である。

明智駅は会社名と駅名が「知」の字が違うが、駅名は行政上の「智」の名を取っていた。

この駅でも記念きっぷを買おうとしたが、何と S 60. 11. 16 の開業記念の乗車券があった。

ここでも大量に印刷したが、思うように売れ行きが伸び悩み残ってしまっていた。

途中の飯沼駅は、“日本で一番急勾配にある駅”であることを明智の駅員に教えて貰った。

それによると、転換される時にこの駅が開業し、新型の気動車を導入し急勾配に駅が開業した。

何と、33 % (パーミル)と言う、日本一の急勾配に駅ができたのである。

ホームには、“日本一急勾配のえき”の標柱が帰路の車窓から見ることができた。

2 番目の急勾配駅も同じく、明知鉄道の野志駅の 30 % (パーミル)である。

終点の明智駅では 50 分ほど待ち時間があり、駅前には食堂らしき店は見つからなかった。

この鉄道は、グルメ鉄道で有名でもあったが、今日は何もなく腹を減らしながら食堂を探した。

少し遠いので荷物を駅員さんに預かって貰い、雨が降っており傘を指しながらコンビニへ行った。

雨にも負けず、空腹にも負けず、一路、コンビニを目指して知らない地を歩くのである。

駅の印象は街の中心部にあるのが普通であるが、少し離れており人気がなくなっていた。

近いということで歩いたが、雨のせいか遠いと感じながら小さなコンビニを見つける。

品数も残り少なく“贅沢は敵”と思いながら、グルメ鉄道の食事を羨ましく思った。

岐阜県には第三セクターの鉄道会社が 4 社もあり、「チャレンジ 150 Km キャンペーン」を紹介され早速シールを頂く。

明日から乗る長良川鉄道、樽見鉄道、神岡鉄道の合計距離が 150 Km あるので命名したらしい。

例えば、大分県には 1 社もないが、4 社もあるなんて贅沢でもあり珍しいと改めて認識した。

明智町は「日本大正村」として有名であり、駅員さんから是非と言う勧めもあった。

記念に頂いた時刻表は、手製の時刻表で何故か温かみがあった。

行きも帰りも乗客は少なかったが、やはり、ここでも乗客は通学生が主であった。

通学生であれば、いずれはこの町を出て行く運命でもあり鉄道離れは必死である。

観光客の乗車に期待したいと言った駅員の言葉に何か寂しいものと苦しいものとが混じていた。

帰路は 20:03 の恵那行きに乗るが、やはり観光客どころか通学生の姿もなかった。

